

メキシコペソの謎

メキシコペソはポジション保有者にとってフラストレーションが溜まる通貨だ。ドルペソのロングを持つ者はどうして上がらないのか、ショートを持つ者はどうして下がらないのか、とイライラが募る。

中南米の通貨というと大きな変動を繰り返す通貨が多い。経済のファンダメンタルズや政治状況がそれだけ不安定と言うことだ。代表的な通貨のブラジルレアルやアルゼンチンペソは典型的な例だ。年初来でも十数パーセントの変動幅だ。だが代表的な通貨のメキシコペソの変動幅は小さい。年初来では4%程度、ドルペソ 19.50 から 20.50 のレンジ内に概ね収まっている。もっと長い時間軸をとっても同じような傾向が当てはまる。レアルなどとの比較においても同様だ。

ではメキシコの経済や政治はそれだけ安定しているのか。そうとも言えない。ちょっと前まではNAFTA(北米自由貿易協定)の廃棄や新自由貿易協定USMCAの締結を巡って揺れていたし、新政権は巨額資本がつぎ込まれていた空港建設プロジェクトの中止や国営企業有利な政策を鮮明にするなど海外投資家の意欲をそぐような政策を連発してきた。

こうしたことを考えれば他の中南米諸国と同様に為替レートが二けたの変動幅になる方が当然に思える。

あらためてドルペソのロングとショートの材料を整理してみる。ロングの方は、政府の国有企業有利の政策、海外資本の流入減、犯罪の多発、政権と麻薬組織の癒着など。ショートの材料としては、USMCA 締結後の米国への輸出増加による貿易収支の黒字拡大、ドルとの金利差(6月に政策金利を4.25%に引き上げ)、原油高などだ。

これにドルサイドの要因が加わるが、どちらに重きを置くかでポジションは分かれる。それぞれの材料は大きな変動を期待するに足るものだ。だが結果として小幅な変動しかないのは二つの材料がもたらす為替売買が均衡していると考えられるしかない。

為替取引が乏しくてレートが変動しないのではない。メキシコペソは中南米通貨の中でも最も取引が多い通貨で、世界では 15 番目に取引の多い通貨だ。

ちなみに私はドルペソのショートを持っている。USMCA のもとでメキシコの貿易黒字と資本流入の増加が期待できると思ったからだ。だが大統領のオブラドールは利食いのチャンスをことごとく奪ってきた、と私は思っている。フラストレーションが溜まるばかりだ。